

【季刊】

沖縄の食と旅と暮らし

食のWIND 風

FOOD の WIND

SPRING 2012 10 定価500円

【特集】

愛でる、芽でる
オキナワシンハーブ

宜野座エコビレッジ構想始まる

CSAで農的革命を

時川真一の「沖縄食材イラスト紀行」

八重山食文化シンポジウム

【特集】

愛でる、芽でる

オキナワンハーブ

春、沖縄の虫たちは蠢き
オキナワンハーブたちは
小さな花をたくさん咲かせ、一斉に芽吹く。
野に山に、香り強く、
時に強烈な個性を演出して。
さあ出かけよう、野草のジャングルへ。
オキナワンハーブよ、沖縄中を埋め尽くせ。

n Herb

田崎 聡=文・写真

Text / Photo by Satoshi Tasaki



Okinawa

オキナワンハーブの極め 実も葉も使える八重山のピパーチ



個性豊か八重山のハーブ

石垣島の街はずれ、市内から車で約10分ほどのところに、「石垣島ハーブスクール」という看板がさとうきび畑の一角に見えてくる。キャッチコピーは「健康維持に、ビジネス拡大に」と、何やら面白そうである。特に、「ビジネス拡大に」というフレーズが妙に気になる。ハーブでビジネス拡大？ますます興味が湧いてくる。

その石垣島ハーブスクールを主宰しているのが、嵩西洋子さんだ。嵩西さんは平成19年にスクールを開業した。ナチュラルアート農業スクールのようなスクールをめざし、ハーブの農園から生産することから始まって、加工から販売、スクールの運営、エステ、アロマの技術習得、ボタニカルアートまで、全てをこなすまさにスーパーウーマンである。

6次産業化という言葉が最近一人歩きし始めているが、嵩西さんは一人で6次産業化を実践していると言っている。人々が、「こんな雑草だらけの畑で何してるの」とか言われても、自分の信念を貫き通す力が嵩西さんにはある。与那国島出身の嵩西さんは、離島苦の中で独学で植物のこと、ハーブのこと、料理のことを勉強してきたのである。



八重山のハーブで
6次産業化をめざす
「石垣島ハーブスクール」





左: 苗床づくりに余念がない
 上: 八重山の長命草は青々としていて柔らかい
 下左: 石垣島ハーブスクールの看板
 下右: 加工・開発したさまざまなサプリやアロマ



石垣島ハーブスクール
 〒907-0003
 沖縄県石垣市字平得1021
 TEL/FAX 0980-82-7038

嵩西洋子さんを、八重山のパンダナ・シバと言っても言い過ぎではないだろう。パンダナ・シバはインドの女性物理学者で、世界的に有名な環境学者でもある。遺伝子組換えの種子に反対し、生物多様性を重視する行動的な学者で知られている。嵩西さんも、八重山の在来野草にこだわりの「大量生産・大量消費」の今の野菜づくりに反対である。「ハーブには、農業はいりません。もともと生えている野草だから、強い。私もそんなようなものかもね」と笑う。

現在、嵩西さんはピパーチの苗を育て、栽培することに力を入れている。「ピパーチはちよつとクセがあるけど、実も葉も使えて、これを使わないと物足りなくなるんですよ」と嵩西さんは熱く語った。